

議会のあり方調査特別委員会 議会 I C T 検討分科会 記録	
開 会 年 月 日	令和 7 年 7 月 2 日
開 会 時 刻	午前 11 時 39 分
閉 会 時 刻	午前 12 時 18 分
出 席 委 員 名	◎北村 勝 ○宮崎 誠 三野泰嗣 川口 浩
	吉井詩子 岡田善行 福井輝夫 吉岡勝裕
欠 席 委 員 名	なし
署 名 者	－
担 当 書 記	森田晃司
協 議 案 件	1 タブレット更新の方向性について
	2 新たな勉強会の実施について
説 明 員	森田書記

会議の概要

北村会長が開会を宣告。その後、直ちに会議に入り、「タブレット更新の方向性について」外1件を順次議題とし、協議を行い、分科会を閉会した。

なお、詳細は以下のとおり。

協議の内容

1 タブレット更新の方向性について

北村会長から、タブレット更新について、細かい機種を選定は改選後に行うが、予算要求のためにある程度の方向性を決めておく必要がある旨の説明があり、委員に次回のタブレット更新に向け意見を聞いたところ、下記のとおり発言があり、協議の結果、本件について意見を参考とするため、全議員を対象にアンケートを実施することを確認した。（アンケートについては正副会長及び議会事務局で案を作成し、改めて委員に意見をもらうことを確認した）

【発言】

- ・吉岡委員「現行機種は重いのもう少し軽いものがよい。また、タブレットにこだわらずタッチパネル機能がついた軽いノートパソコンで、現行機種と同じように Windows でオフィスが使えるものを選定していただければ」
- ・三野委員「タブレットとパソコンは別物だと思っている。次は大画面で軽いノートパソコンを検討されたい。また、タブレットは2台目として使うようなものと思っている。タブレット機能が無くなるともう少し安くなるのでは」
- ・吉井委員「重さも重要になってくる」
- ・川口委員「議会活動はほぼ現行機種で行っており満足している。画面の大きさと重さは、かばんに入ることが大前提。キーボードを取り外して使うことはなかったため、（タブレットではなく）ノートパソコンを検討するのがよい」
- ・岡田委員「タッチパネルをメインで使っているわけではなく、ノートパソコンでもタブレットでもどちらでもよいが、議員の中にはタッチパネルを使っている人がいるためタッチパネル機能はある程度必要ではないかと思う。（他の議員の意見を参考とするため）アンケートを取ってほしい。また、現行機種では予算書を見ようとすると画面が小さい。将来的に予算書を含めてノートパソコン・タブレットでいくのであれば、それなりの画面の大きさが必要。」
- ・福井委員「今まで現行機種を使っている中で何も問題はなかった。これと同じ程度のものであれば問題ないと思う。ただ、USB 端子がもう一つあるほうが便利。また、私はマウス派でタッチパネルを使っていないが、会派の中ではタッチパネルをメインに使っている人がいるため、タッチパネルはあったほうがよい」
- ・宮崎副会長「かばんに入るサイズはぎりぎり 15 インチ。基本的には 13 インチあればよいが、14 インチのもので軽いものも出てきている。重量については 1 キログラム前後で考えるのがベター。CPU や GPU はマイクロソフト社のもののほうが画像処理を同時にできる。N シリーズのものを採用すればもっと値段が安くなる可能性がある。オフィスについては、2 年間無償のものにして最初の初期投資を安くするのもありだと思う。タッチパネルは、今はタッチパネルの機種が多い。ペンを使うのか、使わないのか、これを視野に入れて

いく。予算がいくら安くなるのか、議会事務局を通じて話をしていく」

2 新たな勉強会の実施について

前回の分科会において委員から「新しいことに取り組んでもいいのでは」との意見があり、正副会長及び議会事務局で検討した結果、オンラインで使える無料のグラフィックデザインツールについて、及び本会議の会議録検索システムについて、新たに勉強会を実施してほしいかと会長から提案した。若干の質疑の後、本分科会委員でオンラインで使える無料のグラフィックデザインツールについて勉強会を実施することを諮ったところ、特に異議なく、提案のとおり決定した。

上記署名する。

令和7年7月2日

会 長